

特集



ほこども
鉾留(桐)

はながさ
花傘

しんばしら
心柱

こうらん
高欄

まくおさえ
幕押(上)

車輪

まんまく
幔幕

二番町の御車山
7基中6基が4輪の車輪であるのに対し、二番町だけが2輪である。

御馬出町の御車山
神が降臨する人形を本座と言い、御馬出町は能の「鉢木」に因んだ「佐野源左衛門」を置く。

かご
籠

ほんざ
本座



重要有形・無形民俗文化財
全国で両指定されている5件のうちのひとつ

高岡御車山の意匠

時を超える美と心

1960年、高岡御車山は、信仰に用いられるものとして、重要有形文化財の指定を受けた。
その意匠には、神の座としての意味、そして御車山を受け継いできた町民たちの時を超える心意気がある。

「高岡よ、永く栄えよ」
その願いが華やかに咲いた

陽春の陽射しが、金色の鉾留をまぶしく輝かせている。漆黒の車輪が軋みながら回り、赤、黄、白の花を並べた花傘が、時折優雅に揺れる。高欄に取り付けられた金具はもちろん、漆の黒さえも輝き、太鼓や鉦のゆつたりとした囀りが響く。「きれいやねえ！」と、弾む声が聞こえ、誰もが特別な日の高揚感を感じている。

5月1日、高岡御車山巡行である。高岡御車山は、豊臣秀吉が天皇を聚楽第に招いた時に使用した車を、前田利家に下賜したものを

との説がある。それを前田家二代当主利長が、高岡開町にあたり町民たちに与え、館部分を加えさせたという。

利長が高岡城主の時代には、毎年高岡関野神社の春季例大祭の日、御車山が高岡城三の丸に上がり、祈禱を受けたと記されている。御車山は、利長の高岡繁栄への願いから生まれた。町民たちは、その願いを受け止め、御車山を今も守り続けている。

日本古来の神迎えが
御車山の意匠に生きる

御車山は、飾り山と地山にわけられる。地山は、車輪及び幔幕をは

りめぐらせた箱型の部分で、幔幕を押さえるために、幕押がある。

飾り山には、心柱が立てられ、菊の花を放射状にして花傘を形作っている。心柱上部には、竹で編んだ籠が付けられ、その最上部には、鉾留があり、桐や胡蝶など、それぞれ町ごとの意匠となっている。

高岡独自のものとされる花傘をはじめ、このような構造の山車は、全国にもほとんど見られない。なぜ、高岡の山車は、このように独特な意匠なのだろうか。

古代、神は天上にあり、祭りの際、その降臨を願うものであったことから、民俗学的には、心柱は神が降臨するための目印、花傘は祭壇に

飾られた花、籠は花を入れる竹籠であるという見方ができるといふ。

御車山には、大黒天など町ごとに異なる大型の人形などが乗っている。この人形は、神が降臨する依代と考えられる。

つまり、御車山の意匠は、「神の座」としてのものであり、御車山が町を巡ることは、降臨した神々による巡行である。高岡御車山祭では、それを「御車山奉曳(ぶえい)」と称する。

このように、心柱、花傘、籠など神霊を迎えるための諸要素を備えていることが高く評価されて、7基すべてが、重要有形民俗文化財に指定されたのである。



■山町10か町図
高岡御車山を所有する町を、「山町」と言う。源平町、三番町、一番町の三町は、「一番街通」の御車山を共有している。坂下町は、「源太夫獅子(げんだいじし)」にて御車山を先導する。

■高岡御車山と重要民俗文化財指定
1960年 重要有形民俗文化財指定「高岡御車山」
1979年 重要無形民俗文化財指定「高岡御車山祭の御車山行事」

写真は、二番町の御車山(部分)

■後屏



通町の後屏 朱塗りの孔雀や牡丹の彫刻に、古味付けが施されている。

古味付け(ふるびづけ)
彫刻の凹み部分にマコモ粉や煤玉(すすだま)を施し、陰影を持たせることで、彫刻の立体感と古雅の雰囲気表現する技法。



通町後屏 斜めから見た写真
横から見ると、彫刻の重量感と立体感が伝わる。



背面から見た通町の御車山
飾り山後部に後屏がある。

■高欄



小馬出町の高欄 高欄と後屏が一体となっており、高岡漆器の彫刻塗に見られる彩色技法が用いられている。



守山町の御車山
御車山会館では、4か月ごとに展示替えし、御車山1基を通年展示する。



高岡御車山会館

2015年春、開館。外観は、山町筋(重要伝統的建造物群保存地区)の特徴的な建物である土蔵造りとし、高岡御車山の歴史や伝統工芸品の解説、4Kの高精細画像によるシアターなど、多彩な展示がある。

- 開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 有料ゾーン観覧料 一般(高校生以上):300円
- 休館日 火曜日(祝日のときは翌平日)、年末年始
- 高岡市守山町 47-1 TEL:0766-30-2497
- http://mikurumayama-kaikan.jp

参考資料 「高岡御車山」(高岡市教育委員会発行)
画像提供(金具、高欄、後屏) 高岡市教育委員会

鮮やかな彩色塗りと古く雅趣に富んだ味わい

漆工の技も、高岡ならではのものがある。満開の牡丹に、小鳥が止まる小馬出町の高欄は、井上小右衛門の作と伝えられ、赤や緑を表現するその漆工の技は、今日の高岡彫刻彩漆技法の原点とも言われる。花びらにも葉にも立体感があり、多色の色合いに豪華さがある。

通町の後屏は、青海波の地文に孔雀や牡丹の文様を置き、上部の欄間には龍が彫られている。

この作品は、あえて古く見せる古味付けが施してあり、高岡漆器の祖、辻丹甫の作と伝えられる。

漆工の技法とともに、曲線を自在に表現した意匠も美しい。

最上の名誉に 職人は魂を込める

高岡御車山の金工や漆作品に携わった職人は、どの時代であろうと御車山のために渾身の力を込めた。重責と誇りとともに。

山町の人々も、職人に依頼することで地元の手芸家を育てた。

今、高岡市では、「平成の御車山」の制作が進められている。金工、漆工など、平成の名工たちがその技術を結集し、先人たちが同じく、伝統と技術を次の世代へ伝える。

御車山を守り続ける山町の人々の心と、その思いに込め、高岡の名工たちが作り上げた美。400年の時を超えて、光り輝く美と心が、高岡のまちを今年も巡行する。

高岡御車山祭 重要無形民俗文化財

日時/毎年5月1日【平成28年は日曜日】
11:00 曳揃い 12:00 勢揃い (P9「高岡の文化財」参照)
(4月30日 宵祭・ライトアップ)
場所/高岡市中心市街地

■上幕押金具



「桜に雀」 雀は、銅板の打ちだし技法による。羽根の裏からお腹にかけては銀の着せがね、頬と目に赤銅の象嵌が施されている。

着せがね
象嵌技法の一つ。土台の形に合わせて、薄い地金板を口ウ付けして被せることで、立体感を出す技法。

※口ウ付け 金属同士を接着するため、隙間で融点の低い合金「口ウ」を溶かす技法。

打ち出し

打ち鑿(たがね)を使って、金属板を立体および半立体に成形する彫金の技法。



象嵌(そうがん)
金属の表面を鑿で掘り下げた部分に、異なる金属を嵌め込む技法。それぞれの金属がもつ色彩の違いを活かして図柄を表現する。



「蜘蛛の巣に蝉」 蝉は、頭部と身を赤銅、足は銅、羽は黒味銅で作られており、様々な配合の金属が象嵌されている。

透かし彫り
文様を浮き立たせるため、金属板の地の部分を鑿や糸鋸で切り取って透かす技法。



「蜘蛛の巣」 蜘蛛の巣は、黒味銅の繊細な透かし彫りが特徴。蜘蛛は、赤銅で細かく作られている。

小馬出町 上幕押金具 配置図
上幕押の周囲には、14枚の額形金具が配されている。「蜘蛛の巣に蝉」と「蜘蛛の巣」は正面の角に位置し、図柄が関連している。

全体写真



御車山が連れてくる 優美な春の喜び

利長が作らせた当時の御車山の姿が伝わる資料はないが、現在の御車山の金工・漆工品は、高岡開町から時を経て、技術的に発展した江戸中期以降のものと考えられる。

木舟町の御車山は、銚留が「胡蝶」であり、春の華やかさを感じさせる姿だが、上幕押金具も花鳥文様で優美な意匠となっている。そのうちのひとつが、「桜に雀」である。

桜の枝から飛び立ち、風に乗って翼を大きく広げている。またつほみの桜もあり、寒いのだろうか、雀の体は少しふくらんでいる。その立体感や羽毛のリアルさは、金属とは思えないほど、温かさを感じさせる。

この金具は、着せがね、象嵌、打ち出しなどの彫金技法を駆使して作られ、自然の風景を写実的に描く観察力と、金属を自在に扱う技術力が、高度に融合している。

自然の世界をそのままに「神の座」をつくる

小馬出町の上幕押金具は、独特

な意匠になっっている。「ほおすきにかぶと虫」や「みずあおいにとんぼ」といった身近な虫と植物を描き、中でも「蜘蛛の巣」「蜘蛛の巣に蝉」の2つの金具が斬新だ。

正面角に対称的に配置された蜘蛛の巣。片方には蜘蛛。もう一方には捕らえられた蝉がいて、片方の羽が取れている。

高岡御車山保存会理事で小馬出町在住の宮岡秀明さんによると、意匠の由来は伝わっていないという。「御車山の工芸品は、各町が競って腕のいい職人を探し、制作を依頼した。職人も、『後世に恥じないもの』を」と、思ってたんです」

透かし彫りや象嵌の彫金技法を駆使し、直線を多用した意匠は、モダンですらある。

美しい花鳥だけが、この世にあるのではない。生き物はすべて、神の前では同じ生命。目の前にある生命の姿を自然のままに描き、新しい神の座を作ろう。そんな意匠込みが、これらの金具から感じられる。職人は、金属で生物が持つ生命力を描き出した。「後世の人間も、必ずこの意匠と技に目を見張る」。そう信じていたに違いない。



一番街通(いちばんまちどおり)の車輪
4輪で644個の錆(かざり)金具が取り付けられており、その数は御車山随一である。

木舟町の御車山巡行